

和服に対する女子大生の意識

河村まち子 ○今井温子

(共立女子大)

目的

日本人の衣生活の中で和服離れが進んでいるといわれるようになって久しい。しかし一方では、若い人を中心に、ここ数年浴衣が夏の街着として盛んに着られるようになり、定着する傾向にあるなど、変化する様子も見られる。これらの状況をふまえて女子大生が和服に対してどの様な意識を持っているかを調査し、その要因を考察することを目的とする。

方法

女子大生を対象として和服に対する興味の有無と和服の種類をどのくらい知っているかなどについて10年間調査を行った。その調査結果によって女子大生の和服に対する意識を分析した。更に、同じ期間中に首都圏の各家庭に配布された広告等を分析し、意識との関連について調べた。

結果

調査資料を分析した結果、女子大生の和服に対する興味は殆どの学生が有ると答え、10年間の差は見られなかった。また知っている和服の種類の数についても大きな変化は見られなかった。しかし、種類の内容や、表現には変化が見られた。これは生活環境の変化や雑誌、広告などの和服に対する扱い方や表現方法の変化に影響を受けて学生の和服に対する意識が変化したものと考えられる。